

(参考) 売買手数料単価の算定方法について

電力需給調整力取引所

2024年 3月 14日

売買手数料単価の算定について

- 需給調整市場では、市場開設業務に要する費用等を賄うため売買手数料を徴収させていただきます。（取引規程 第65条）
- 売買手数料は、 Δ kW約定量に応じた従量制としており、調整力の売り手である取引会員さまと買い手である一般送配電事業者の両者が負担します。
- 売買手数料は、取引の状況、本市場の市場開設業務に要する費用等を参照して、実需給日が属する年度毎に定めることとしています。
- なお、「実際に要した市場運営費用」と「売買手数料による徴収額」に差が生じた場合は、過不足分を翌々年度の売買手数料単価に反映する仕組みとしています。

- このたび、2024年度に向けた新たな取組みとして、売買手数料単価の決定・公表に先立ち、単価の見直しをお知らせするとともに、意見募集(本年2月1日～2月15日)を実施いたしました。
- 意見募集の結果として、ご意見はありませんでしたが、今後とも、取引参加者さまをはじめ、関係者のみなさまから広くご意見をうかがい、市場運営に活かして参りたいと存じます。

売買手数料単価の算定式

<売買手数料単価の算定式>

$$\text{売買手数料単価} = \frac{\text{市場運営費用(想定額)} + (\text{前々年度過不足分})}{\Delta\text{kW約定量(想定値)} \times 2 \text{ ※1}}$$

(参考：取引会員さまに負担いただく売買手数料の算定式)

$$\text{売買手数料単価} \times \Delta\text{kW約定量} \text{ ※2}$$

※1 買い手と売り手の両者が負担する仕組みのため、単価算定においては $\Delta\text{kW約定量(想定値)}$ を「 $\times 2$ 」としています。

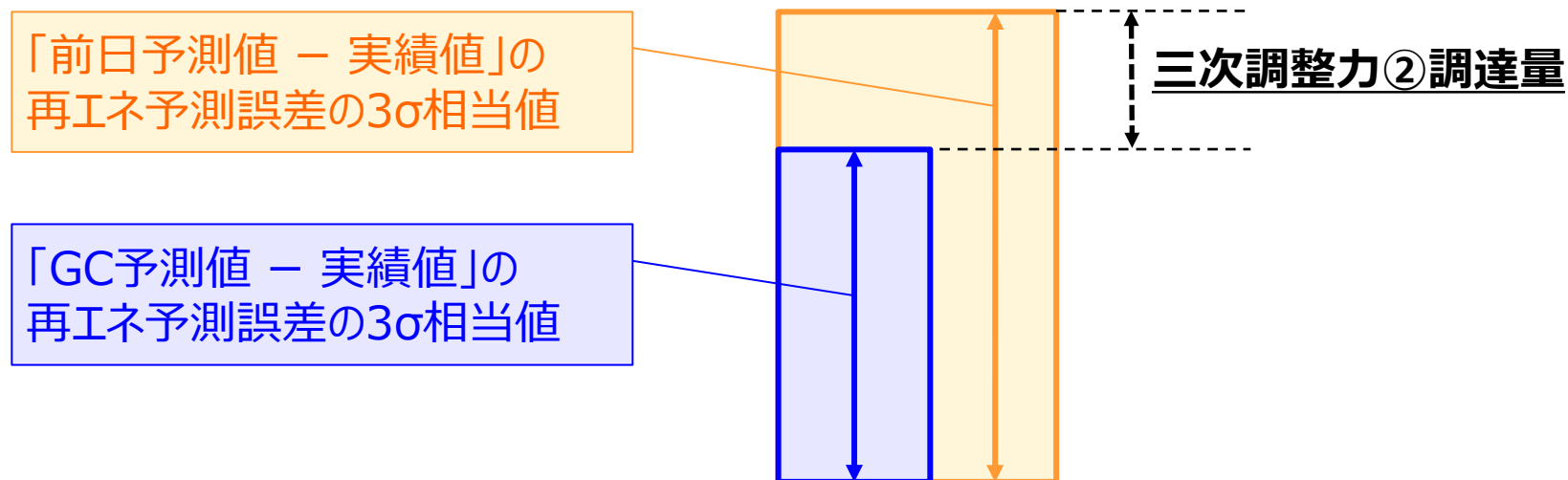
※2 買い手である一般送配電事業者も、同じ算定式で算出した売買手数料を負担します。

売買手数料単価の算定における「 ΔkW 約定量」(1/2)

- 当該年度の調達量の合計値を事前に想定し、売買手数料単価算定上の「 ΔkW 約定量」としています。(単価算定において、分母として使用)

(参考：三次調整力②調達量の考え方)

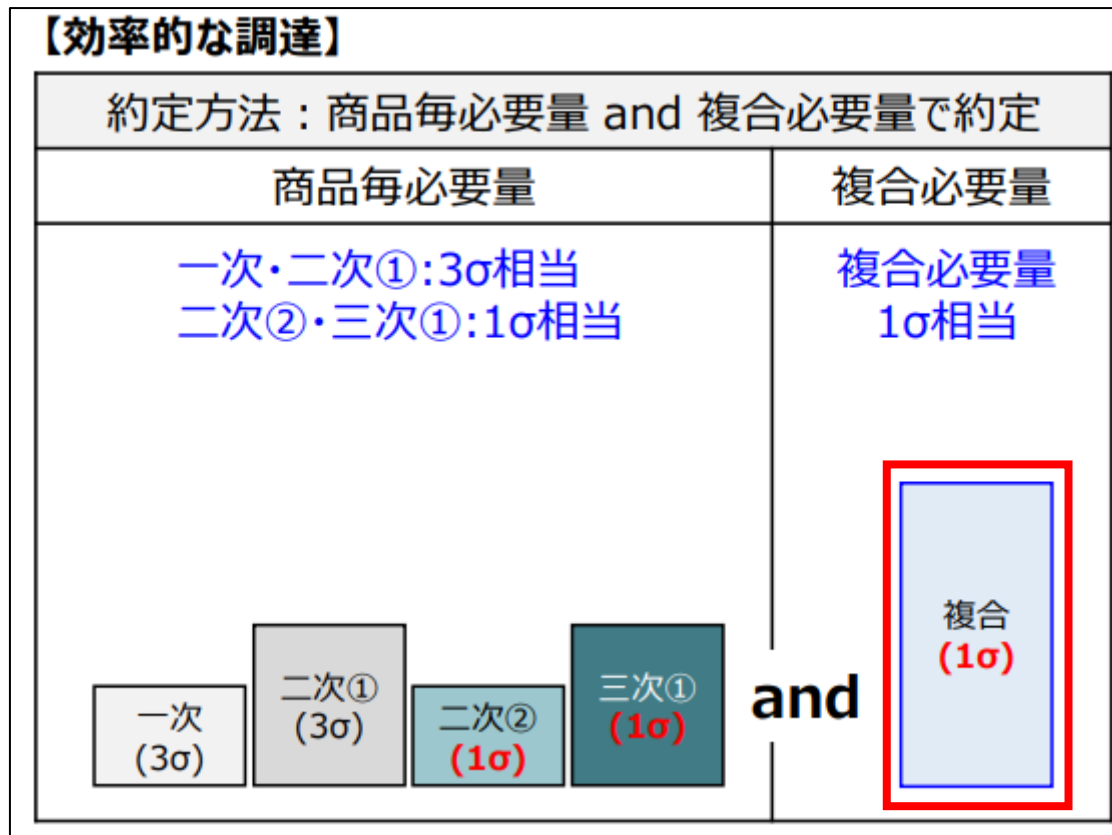
- 三次②調達量 = 「前日予測値－実績値」の再エネ予測誤差の 3σ 相当値
－ 「GC予測値－実績値」の再エネ予測誤差の 3σ 相当値



$$\text{売買手数料単価} = \frac{\text{市場運営費用(想定額)} + (\text{前々年度過不足分})}{\Delta kW \text{約定量(想定値)} \times 2}$$

売買手数料単価の算定における「ΔkW約定量」(2/2)

(参考：2024年度における一次～三次調整力①調達量の考え方)



2023年4月26日 第38回需給調整市場検討小委員会 資料2抜粋

$$\text{売買手数料単価} = \frac{\text{市場運営費用(想定額)} + (\text{前々年度過不足分})}{\Delta\text{kW約定量(想定値)} \times 2}$$

売買手数料単価の算定における「市場運営費用」

- 当該年度の市場運営に要する費用を事前に想定し、売買手数料単価算定上の「市場運営費用」としています。(単価算定において、分子として使用)

需給調整市場の運営費用
(想定額)
<人的費用・その他諸費>

+

需給調整市場システムの運用費用
(想定額)
<保守・通信費用等>

$$\text{売買手数料単価} = \frac{\text{市場運営費用(想定額)} + (\text{前々年度過不足分})}{\Delta\text{kW約定量(想定値)} \times 2}$$

売買手数料単価の算定における「過不足分」の反映

- 「実際に要した市場運営費用」と「売買手数料による徴収額」に差が生じた場合は、過不足分を翌々年度の売買手数料単価に反映します。（単価算定において、分子として使用）

	X 年度	X+1年度	X+2年度	X+3年度
X-1年度	売買手数料単価決定			
X 年度	↓	売買手数料単価決定		
X+1年度	過不足 発生	↓	過不足分を反映 ↓ 売買手数料単価決定	
X+2年度		過不足 発生	↓	過不足分を反映 ↓ 売買手数料単価決定

$$\text{売買手数料単価} = \frac{\text{市場運営費用(想定額)} + \text{(前々年度過不足分)}}{\Delta\text{kW約定量(想定値)} \times 2}$$

【参考】2024年度の売買手数料単価決定時の諸元について

- 市場運営費用：システム保守費用増等により2023年度から若干増の**15.7億円**を想定。
- 前々年度過不足分：2022年度実績の**1.0億円**（不足）。
- ΔkW 約定量想定値：TSOによる必要量想定値を使用。一次・二次商品の取引開始により増加する見通し。一次～三次①分は、複合1 σ 値を採用し、**合計759億 $\Delta kW \cdot h$** を想定。
- 2024年度売買手数料単価：小数点第3位以下を切上げ、**0.02円/ $\Delta kW \cdot h$ （2023年度と同額）**。取引状況や制度見直しにより、 ΔkW 想定約定量に対し募集量や応札量が下回る(約定量下振れ)リスク※等を踏まえ、大幅な収支過不足は発生しない前提の水準。

<2024年度手数料単価決定時諸元等（2023年度単価算定時との比較）>

		2024年度単価 算定時想定値	2023年度単価 算定時想定値	備考(変動要因等)
① 市場運営費用 【億円】	人的費用	2.1	1.9	
	システム関連費用	12	11.1	・保守費用増(為替要因等による) ・商品追加に伴う開発費用は手数料回収対象外
	その他費用	1.6	1.2	・組織変更(法人化)に伴う費用増
計		15.7	14.2	
② 前々年度過不足分(億円)		1.0	-1.4	・2022年度収支実績:1.0億円の不足(赤字)
③ ΔkW 約定量想定値 【億 $\Delta kW \cdot h$ 】	一次～三次①	551	143	・1次、2次商品取引開始に伴う増 ・1～3次①複合必要量1 σ のTSO想定値を採用
	三次②	208	210	・2024年2月7日 第45回需給調整市場検討小委員会 資料2の事前評価による「2024年度の三次②年間調達量(推定値)」を使用
計		759	353	
④ 手数料単価【(①+②)÷(③×2)】 (端数処理前)		0.02 (0.011)	0.02 (0.018)	・2022、23年度とも、銭未満の端数処理により単価を【2銭】に繰上げたが、約定量が想定を下回り、収支上不足が発生。

※ ΔkW 約定量下振れリスク：仮に、直近(2023年度3Q終了時推定)と同程度の比率で、2024年度も想定に対し実績が下回る場合、約定量は759⇒約427億 $\Delta kW \cdot h$ となり、この値で2024年度想定費用(前々年度過不足を加味した額)を割ると、0.019円/ $\Delta kW \cdot h$ となる。